

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成24年10月31日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士後期課程1年

氏 名 佐々木 孝子

助 成 の 種 類	平成24年度 ・ 研究者交流支援 ・ 在外研究短期助成		
研 究 課 題 名	台湾の社区营造における特徴と課題		
受 入 機 関	台湾大学 生物産業伝播及び発展学系 彭立沛助理教授		
渡 航 期 間	平成24年 8月22日 ～ 平成24年10月 7日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有( )		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	450,000円	
	使用した助成金額	450,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空運賃・台湾国内交通費	56,681円
		日当・宿泊費等	393,319円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団から助成を賜り、今回、非常の実りの多い調査結果が得られました。海外でのフィールド調査を必要とする研究であることに加え、年齢的な条件でほとんどの助成金制度への応募が困難なことなど、これまで調査の範囲を限定せざるをえない状況であった私にとりまして、精神的にも大きな支えとなりました。現在増えている社会人大学院生へのエンパワメントの意味においても、この貴重な制度を継続していただけますようお願いしております。		

## 成果の概要／佐々木 孝子

### 1. 背景と目的

「社区营造」とは、中央政府による社区総体营造政策（1994）に始まる、台湾における「住民参加型まちづくり」である。行政と専門家の支援・協働の下に、社区（=Community）の住民が社区营造組織を設立して活動を実施するという手法は国民に広く受け入れられ、制度も整備されてきたが、「住民が共同意識を醸成し、社区の問題解決を住民が自主的に行う能力（社区能力）を培う」という理念とは裏腹に、近年、社区营造活動への参加者の減少や、活動成果の社区間格差が課題となっている。特に、農村においては、高齢化及び出稼ぎの恒常化等でコミュニティが弱体化していることが社区营造の阻害要因の一つとされている。

社区营造活動への住民参加に関する先行研究では、社会構造やソーシャル・キャピタルを着眼点に、住民どうしの信頼や、専門家等社区の外部者との良好な関係の構築等が共同意識や社区能力の形成に重要であることが解明されてきた。社区能力の形成を目的としたこれらの研究は、住民組織を運営する幹部会員を対象としており、それ以外の会員及び加入していない住民に対しては、これまで殆ど言及がない。しかし、社区营造の対象は全住民であり、社区能力の形成に関係するのは幹部会員だけではないことは明白である。前掲の課題を解決し、社区能力を形成するには、一般の会員や非会員の行動や社区营造に関する意識を把握し、住民相互の関係を探る必要がある。

そこで、今回の調査では、代表的な社区营造組織である社区発展協会\*を取り上げ、幹部会員以外の住民も対象としてアンケート調査を行った。アンケートは、活動への参加の状況や社区及び社区营造に対する意識の程度を把握し、会員と非会員の差異を整理することを目的とした。また、幹部会員や村里長には、昨年度に引き続いて社区营造の運営や関わりについて更に詳しいヒアリングを行うと共に、参与観察によって対象調査地の社区营造の状況を詳細に把握できるよう心掛けた。

\*社区発展協会：会員大会－理事長－理事会・監事会－総幹事（事務局）という階層構造を持つことが規定されており、理事長から総幹事までが幹部として社区营造活動の計画作成や活動申請、協会の運営を行う。

### 2. 調査地の概要（表1）

当初は台南市白河区汴頭里のみを予定していたが、渡航前に弘光科技大学の王静義副教授が南投県魚池郷新城村鹿蒿社区を、また台南市社会局の李一萍氏が台南市白河区大竹里をご紹介くださり、3つの社区で調査をさせていただけることになった。

### 3. アンケート調査の概要（表2）

アンケート項目は、Ⅰ属性、Ⅱ社区発展協会への関わり、Ⅲ社区营造活動への参加状況と参加意識、Ⅳ社区及び社区内の組織（行政、社区発展協会、廟宇管理委員会）への意識

の4部構成とし、社区発展協会会員と非会員に分けて作成した。

アンケート調査の対象は、社区発展協会の加入資格を考慮して20歳以上の住民とし、配布対象地区は、鹿蒿社区は全戸、沐頭社区は当社区を構成する4地区の内、林子内地区の72戸、大竹社区では第1隣の94戸とした。この両社区は、区域が広く全戸配布が難しいため、最も古くから存在し、人口規模も最大で、社区营造活動センターがおかれた中心地区を選んだ。鹿蒿社区では社区発展協会理事長の夫人が配布・回収を引き受けてくださり、沐頭社区は会員の多くがキリスト教徒のため、礼拝の後に一人ずつ配布したほか、72戸を一軒ずつ訪問した。大竹社区は、里長に配布と回収をお願いできた。配布数と回収数は表3のとおりである。

#### 4. 結果

##### 1) ヒアリング結果(表4)

###### (1) 現在実施中の活動

3社区とも、現在、社区照顾關懷拠点活動と社区内清掃活動を行っている。

###### ① 社区照顾關懷拠点活動

市政府社会局による高齢者福祉政策の一環で、住民組織が高齢者の定期健康診断や健康体操、カラオケ等の活動を行い、市政府は血压計やカラオケ設備等の助成を行う他、年間に最高で18,000元程度の活動資金を交付する。

###### ② 社区内清掃活動

市政府衛生局による環境保護政策の一環で、村里長等の行政機関や社区発展協会が「環養工隊」を組織し、市政府は活動資金として年に20,000元を助成している。

###### (2) 各社区の状況

###### ① 鹿蒿社区(以下、鹿蒿)

鹿蒿は921震災(1999)で大きな被害を受けた地域にあり、社区発展協会は震災復興のために行政の指導により2003年に設立された。設立当初は行政の他外部NPOからも復興のため経済的或いは技術的な支援を受けたが、現在は社区発展協会が活動の主軸となっている。産業振興や生活環境整備事業も手掛けたいが、行政からの活動助成金だけでは実施が難しく、また高齢化を考慮し、前述の活動がいわば等身大だと判断したとのことである。社区内清掃活動は、村長が主催する新城村環養工隊とは別に社区発展協会で行っている。社区としては、活動は比較的スムーズに進んでいるとの印象があり、その理由として、現在経済状況がよいこと、社区の範囲が小さく住民のまとまりがよいことがあげられた。

###### ② 沐頭社区(以下、沐頭)

沐頭里は現在の牧師が赴任した1995年当時、若年齢層の流出により社区の活力が低下し、また排水設備が整備されておらず、強い雨が降るたびに社区が冠水する状況にあった。そこで、社区の存続に危機感を抱いた牧師が里長(当時)や信徒住民に呼びかけて1998年に社区発展協会を設立し、女性や子どものための教育活動を始めた。2005年には台南市を範

圃に信望愛社区關懷協会（キリスト教系 NPO）を設立し、2009 年に行政の助成を受け、両協会の共同で排水溝を完成させている。現在の活動も信望愛社区關懷協会が社区発展協会に協力する形で行われ、社区発展協会の基盤はキリスト教会にあるといえる。現在、理事長と総幹事には社区外の住民が着任しており、理事長の交代を機とする会員数の増減を経て、会員数は減少している。

### ③大竹社区（以下、大竹）

社区発展協会は、行政の指導を受けて従前の社区理事会を転換したものである。社区理事会は、1990 年代初頭まで行政の末端機関として社区運営に関する作業を請け負っていた住民組織で、従来からの社区活動センターは里長執務室・小学校と同じ敷地内にあり、3 社区では最も行政との関係が深く、社区発展協会と行政・学校の協働が社区营造をスムーズに進めているとの話が聞かれた。社区発展協会の現在の主な活動は社区照顧關懷拠点活動で、社区内清掃活動は里長が組織する「大竹里環保義工隊」が行っているが、ここには社区発展協会の下部組織であるボランティア隊のメンバーも属している。また、近くの大学が主催する環境保護イベントに出店するなど、非定期の活動も少なくない。

#### 2) アンケートの集計結果

アンケート回答者の属性（図 1）は、性別では鹿藿がほぼ 5 : 5 で、他 2 社区は男性 6 : 女性 4 であり、年齢層では 3 社区とも 60 歳以上が約 30% を占め、高齢化が進んでいる様子が伺えた。職業は農業従事者が多いが、年齢が若いほど会社員の割合が増える傾向にある。現在集計結果の処理中であるため、以下、途中経過であるが、社区発展協会への加入と活動参加に冠する部分についてを報告すると、回答者の社区発展協会への加入率は、鹿藿社区約 60%、沭頭社区約 37%、大竹社区約 52% で、全回答者の約 80% が一般会員であった（図 2）。クロス集計で顕著な結果を示したのは、「活動への参加頻度」で、当然ながら会員の方が参加頻度が高く、非会員は自分の興味や都合に合わせて参加する傾向が高かった（図 3）。一方、性別・年齢・職業等の属性や愛着・定住意思等社区に対する意識とは有意な差はなく、同様の活動に参加した経験の有無も関係がなかった。社区発展協会は、発起人による説明会で会員を募集して設立する仕組みで、加入動機の「自己決定／他者依頼」の 카테고리 に対する回答で「社区への貢献」が最も多いことから、この組織が持つといわれる、志のある個人で構成される「志縁組織」的性格が示された。その一方で、非会員が加入しない理由には少数ながら「社区発展協会の存在を知らない」「どんな組織かわからない」が居住年数に関係なく選ばれており、社区营造に関する情報が伝わりにくい住民の存在が暗示された。一方、回答結果を参加の有無で分類すると、会員・非会員に関係なく、沭頭社区で回答者の約 77%、大竹社区で約 73% が活動に参加すると答えている\*。活動に関する情報の入手先は社区発展協会が最も多いが、非会員の場合、それに次いで、鹿藿社区では家族／親戚、沭頭社区ではキリスト教系 NPO、大竹社区では里の環保義工隊が選択されていた。「非会員でも参加を勧めるか」という設問では、会員の回答者の半数以上が「する」「該当者がいればする」とし、その理由は「社区营造活動を知ってもらう

ため」「社区营造活動は全住民で共有すべき」が最も多く、社区発展協会と協働関係にある社区内組織や、幹部以外の会員の行動が活動参加の裾野を広げている可能性が示された。

活動に参加した感想を、初回と、何度か参加した後の2段階に分けて聞く設問では、初回は会員・非会員とも満足感が最も高かったが、参加回数が増えると、非会員では満足感が継続するのに対して、会員は効力感や連帯感が増える傾向があった。社区の共同意識や自主性の形成を考える際、一般会員の意識や動向を考慮することの必要性が示されたといえる。

\*鹿藿社区では「参加しない」ではなく「その他」としたが、この選択肢を選んだ回答者はいなかった。

### 3) 今後の予定

アンケート結果の集計により、社区营造の課題を解決する上で、一般会員の果たす役割を考察することが重要と思われる結果を得た。今後集計処理を終えた後は、社区や社区内の組織に対する意識や評価と、参加の状況や意識との相関など、アンケートの各項目を非会員も合わせて分析し、課題解決に向けて考察していく。

## 5. おわりに

今回は、対象社区での調査の他、李氏のご紹介で黄源協教授（暨南国際大学）、黄肇新教授（長栄大学）にお話を伺ったり、传统文化の復興・継承活動を行う恒春鎮思想起民謡促進会を訪問するなど、社区营造についての知識をさらに深める機会ともなった。

最後になったが、今回このように調査の幅を広げる機会をくださった貴財団に厚く感謝を申し上げます。そして、現地にはいるにあたってサポートをいただいた王副教授と李氏、よそ者の私を快く受け入れてくださった鹿藿社区、汴頭社区並びに大竹社区の皆さまに心より感謝を申し上げます。

<添付資料>

表1 調査地の概要

	地域概要	調査地の位置
1) 鹿蒿社区 (南投県魚池郷新城村 第13鄰~16鄰)	世帯数：114 人口：347 主産業：農業（紅茶）	
2) 汴頭社区 (台南市白河区汴頭里 第1~11鄰)	世帯数：317 人口：892 主産業：農業（柑橘，バナナ等）	
3) 大竹社区 (台南市白河区大竹里 第1鄰~14鄰)	世帯数：578 人口：1,750 主産業：農業（蓮花，観光業）	

表2 アンケート項目の概要

I	1. 性別		
	2. 年齢		
	3. ①職業 ②職場の所在地（主婦・退職者・無職以外）		
	4. 学歴		
	5. 宗教（無宗教，仏教，道教，キリスト教等）		
	6. 加入組織（複数回答，社区発展協会を除く：農協，宗教組織等）		
	7. 居住年数		
	8. ①同居者（複数回答：配偶者，子ども，両親等全て選択） ②同居人数		
II	非会員	1. 協会非加入の理由（複数回答）	
		2. ボランティアや他の社区発展協会等，以前の活動経験の有無	
	会員	1. 役職の有無（幹部・一般）	
		2. 加入時期（設立当初から・設立後に加入）	
		3. 協会のことを誰から聞いたか（単数回答：発起人，家族，会員等）	
		4. 加入動機（複数回答）	①利己／利他的動機 ②自己決定／他者依頼的動機 ③発起人に対する信頼の類型
		5. 加入以前の活動経験の有無	
		6. 加入後の交友範囲の広がり有無	
		7. 非会員に対する活動参加勧誘の有無	
		8. (上記7で「ある」と答えた回答者のみ) ①誰を誘ったか（複数回答：家族，近所の人，友人等） ②区内の住民であれば知らなくても活動参加を勧誘するか ③実際に勧誘したことがあるか ④（上記②で「ある」と答えた回答者のみ） 活動に誘った理由（複数回答：義務感，任務感，自己決定感，イベント感等）	
8. (上記7で「ある」と答えた回答者のみ) ①誰を誘ったか（複数回答：家族，近所の人，友人等） ②区内の住民であれば知らなくても活動参加を勧誘するか ③実際に勧誘したことがあるか ④（上記②で「ある」と答えた回答者のみ） 活動に誘った理由（複数回答：義務感，任務感，自己決定感，イベント感等）			
III	1. 活動参加の頻度（単数回答：毎回，週に2，3回，年に2，3回，参加しない等）		
	2. 誰と参加するか（複数回答：家族，近所の人，友人，会員等）		
	3. 活動に関する情報を誰から得るか（複数回答：行政関係，社区発展協会，家族，近所の人，友人等）		

IV	4. 活動参加動機 (複数回答：イベントとして，自己決定的，他者依頼的，打算的，交流等)
	5. 初めて活動に参加した時の感想 (複数回答：満足感，達成感，育成感，連帯感)
	6. 何度か参加した現在の感想 (複数回答)：選択肢は上記に同じ
	所属／つながり／サポートに関する項目 (8項目：5段階評価)
	影響に関する項目 (5項目：5段階評価)
	参加に関する項目 (3項目：5段階評価)
	社区と区内組織に対する意識と評価に関する項目 (22項目：5段階評価)

表3 アンケート調査実施の概要

	対象地区	アンケート配布数	回収数 (有効回答数) 回収率
鹿藿社区	全戸 (114戸)	会員：82 非会員：50	会員：70 (70) 約85% 非会員：44 (44) 80%
沐頭社区	第1鄰～5鄰 (林子内地区：72戸)	会員：25 非会員：41	会員：21 (21) 84% 非会員：35 (35) 約85%
大竹社区	第1鄰 (94戸)	会員：46 非会員：31	会員：33 (32) 72% 非会員：30 (30) 約90%

表4 社区营造の状況

	インタビュー	1. 設立年 2. 設立理由 3. 入会費・年会費 4. 会員数 (現在/設立時)	社区発展協会の活動	村・里環保義工隊の活動
鹿藿社区	社区発展協会幹部	1. 2003年 2. 921震災の復興のため行政の指導により設立 3. 200元/100元 4. 130/80	社区照顧關懷拠点活動 ①家庭訪問 (適宜) ②巡回診療・昼食会・カラオケ大会 (週1) ③カラオケ教室 (週2) 社区内清掃活動 (月1)	新城村全地域を対象に月1回あったが，現在の村長就任後 (8月) の活動は未定 (調査時：2012/8)
沐頭社区	社区発展協会幹部	1. 1998年 2. 社区の生活環境整備のためキリスト教会牧師が設立 3. 500元/300元 4. 60/160	社区照顧關懷拠点活動 ①血圧測定 (毎日) ②昼食会 (週1) ③独居老人家庭訪問 (不定期) ④体操・工作等教室 (不定期) 社区内清掃活動 (月1 (不定期))	
大竹社区	大竹里里長	1. 1996年 2. 行政の指導により従前の社区理事会から転換 3. 1000元/500元 4. 330/資料なし	社区照顧關懷拠点活動 ①巡回診療 (毎日) ②健康体操 (週1) ③カラオケ大会 (週2) 季節の行事催行 (適宜)	社区内清掃・昼食会 (月2)

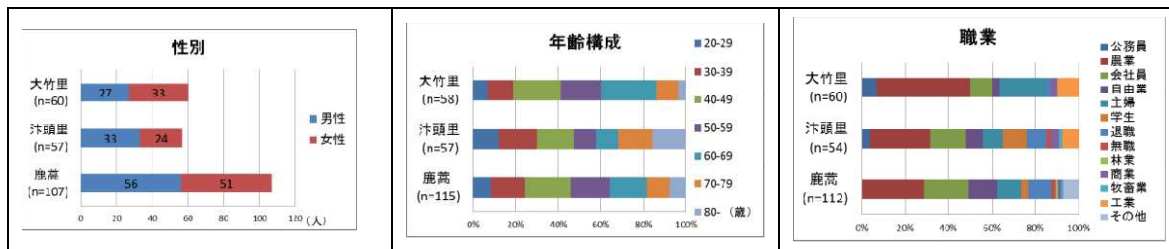


図1 アンケート回答者の属性

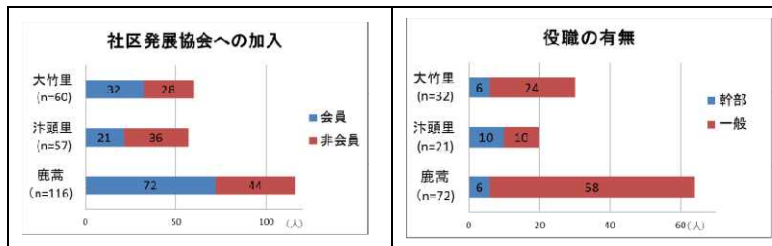


図2 社区発展協会への加入と役職の有無

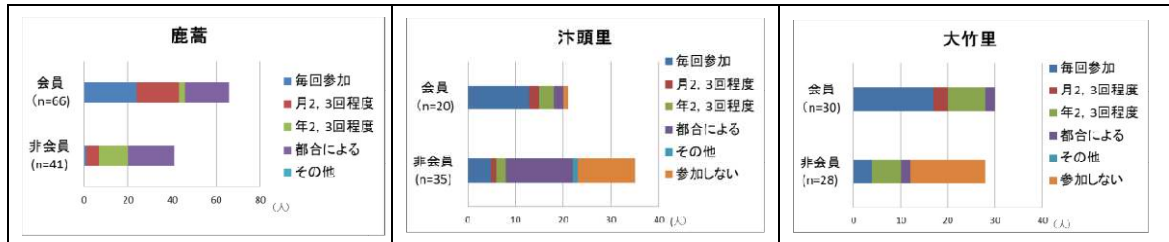


図3 活動の参加頻度